

令和4年度 大館市立矢立小学校 学校評価書(前期・年度)

学校教育目標

ふるさとを誇りに 夢や目標に向かって 主体的に生きる 児童の育成

目指す学校像

- ◎子どもの元気と笑顔、活力を地域に届ける学校 (矢立築学校)
- ◎地域と学校が連携・協働で子どもを育てる学校

目指す子ども像

矢立杉林のように 大地にしっかりと根を張り合い それぞれが大空に向かって たくましく伸びる子ども

目指すふるさとキャリア教育

- 矢立の人・もの・こととの関わりを広げ、ふるさとを誇りに自分のよさを発揮
 - ◇郷土愛 ◇主体性 ◇自立心 ◇発信力

目指す授業

- ◇子どもが試行錯誤し、根拠を明らかにして学ぶ授業(理解の深化)
- ◇子ども同士が助け合い、励まし合い、高め合う授業(学び合いの充実)
- ◇自らの努力や成果を自覚できる授業(自己肯定感と自信の向上)
 - ↑
 - ◇一人一人の確かな見取りと適切な指導・支援のある授業(基礎・基本の定着、教師のコーディネート)

重点事項

- 1 基礎・基本の定着と説明する力の育成
- 2 効果的な2複式学校運営
- 3 児童が主体となるPJ(プロジェクト)や活動
- 4 幼保・小中、地域施設等との連携

いつでもどこでも一人でも!

「なぜだろう?」不思議発見 ハテナ解決



自分のためにもみんなのために!

【矢立っ子の合言葉】



【10月:市教研図工科研究会(3年)】



【10月:スペシャルデー】



【11月:保育所へお芋のお裾分け】



【12月:アナウンス委員会読み聞かせ】



【12月:ふれあいの日】



【1月:スキー授業】

ア
児童の
状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意欲も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

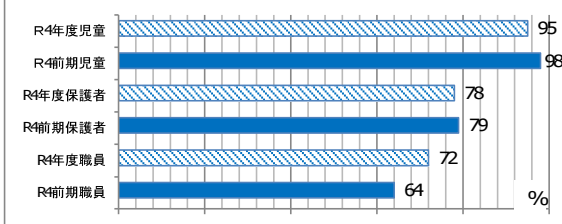
I 自主的・自律的な生活

児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
よりよく生活し安全に過ごそうとする意欲と能力を高めている。	前期 おおむね良好	おおむね良好	あいさつに関するポイントダウンは注意しなければならない。マスクの影響ではという意見もあるが、確かにほつらつきに物足りなさを感じる。あいさつ運動では、良いあいさつを教えて、基準の底上げに取り組んで欲しい。そのためには先生や保護者が見本にならないといけないと言っています。お手本となるように協力して取り組んでください。役割については、特に保護者が物足りなさを感じています。学校でも家庭でも褒めることが役割の自覚に結び付くと信じて、小さなことから取り組ませ、褒める機会増やしていきましょう。
	年度 おおむね良好	おおむね良好	「あいさつ」について前期より先生方の評価が上がり、評価委員からも積極的な挨拶が見られるとの声も良くなってきている。しかし、個人差があることも確かで、児童の「お手本作戦」と先生・保護者の「模範作戦」で全体に広げていきましょう。「役割に責任」について保護者はお手伝いの成果を評価して回答している。児童は1年～6年まであり、低学年はお手伝いとして評価すると不十分な傾向になってしまふ。「役割に責任」という面が重要なので、取り組む役割を広くするためにアンケートを見直すのが良い。
学自校己の改価善の策概要と	<p>【前期(一年度)】 あいさつについては、全体的にはよくなってきているが、個々に見ると「もう少し」という児童もいる。児童主体のあいさつ運動などの取組を継続しながら、よくなってきた児童をほめ、あいさつの輪を全体に広げていく。規則正しい生活については、メディアとの関わりが大きく影響している。保護者との連携を図りつつ、チェックカードの活用や児童会からの呼びかけにより、リズムよい生活ができるようにしたい。安全面での評価は高いが、命に関わることであるので、正しい行動がとれるように、繰り返し指導していく。</p> <p>【年度(一次年度)】 「あいさつ」、「規則正しい生活」については、児童の数値は前期と比べて少し下がっているものの、職員の評価は全体的に改善傾向にある。個々に見ていくと「もう少し」という児童もいるため、全体での指導の他、個別指導もしていく。「役割に責任をもつ」は家庭でのお手伝いの成果が課題となるため、道徳や学活などを通して家族の一員であることを自覚できるようにする。自主・自律の心が育つよう、今後も大人サイドの「ほめる、認める」を大事にしていく。</p>		

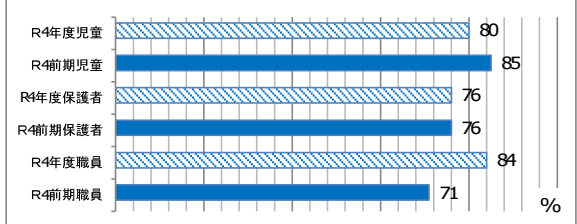
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣	(1) 明るい挨拶	・挨拶について考える場の設定 ・挨拶運動	3	3
	(2) 規則正しい生活	・家庭との連携(早寝、早起き、朝ご飯) ・始まるの時間を意識した学校生活		
2 集団生活・集団活動	(3) 自分の役割に責任をもつ態度の育成	・自ら進んで取り組む活動 ・家族の一員としての自覚	3	3
3 安全に過ごすための行動	(4) 安全教育的の充実	・飛び出し防止の指導 ・交通安全教室 ・判断力を高める避難訓練	4	4

【1に関するデータ】

(1) 明るい挨拶



(2) 規則正しい生活



(1) 保護者アンケート記述より
・進んでや、明るいが足りない。
・自分からはなかなかあいさつができない。

(2) 保護者アンケート記述より
・ときどき早寝ができていないが、朝は早起きしている。

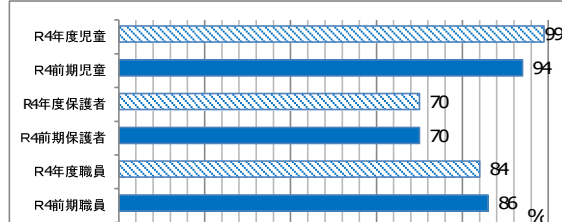


【子どもサミット代表会議で「あいさつ運動」の取組を紹介】

「あいさつ」、「規則正しい生活」とも、前期と比べると児童、保護者はほとんど変わらないが、職員の数値が上がっている。保護者アンケートでは、「進んでや明るい足りない」という意見があったが、職員の中では「自分から明るくあいさつができる子が増えてきた」という声もあった。また、「個人差が大きく、よい子はとて礼儀正しく元気にできる」という声もあった。よくなってきている児童を手本に、全体に広げていけるかが次年度に向けた課題である。
・規則正しい生活については、職員から「1学期は朝から眠そうだった子ども2学期に入り張り切って学習に臨んでいる」という声があった。児童のポイントは、少し下がっているが、保護者の協力により、向上傾向にあると思われる。

【2に関するデータ】

(3) 自分の役割に責任をもつ態度



(3) 保護者アンケート記述より
・進んでが難しいです。

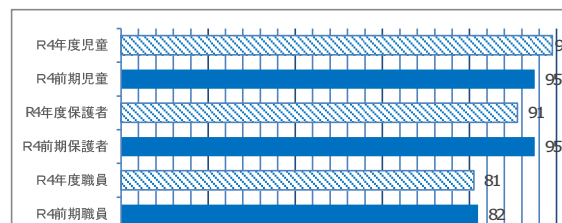
・この項目では、前期に比べて児童の数値が上がっている。また、全体的に見れば保護者の数値が70ポイントと低い傾向にある。これは、保護者の記述にあるように家庭でのお手伝いは行っているが、「進んで」というところでは、もう少しという思いがあるのではないかと捉えている。



【サツマイモ掘りのあともみんな協力して後片付け】

【3に関するデータ】

(4) 安全教育的の充実



【火災を想定した避難訓練での煙体験】

・安全面は、前期とほぼ同様で良い傾向にある。12月には火災を想定した避難訓練を昼休みに行った。児童は放送を良く聞き、どこを通りどこへ避難すればよいか、自分たちで考えることができていた。
・1学期は、休み時間に校内を走って鬼ごっこやかくれんぼをしている児童がいたが、室内での遊び方を指導したことで落ち着いた生活ができていく。

ア 児童の状況

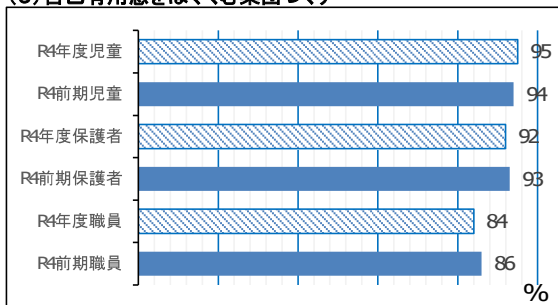
II 思いやりの心・たくましい心

児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
互いに認め合い、助け合いながら物事に取り組み、自分たちの力で解決していく活動の充実が図られている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	友だちの良さや頑張り、自分の良いところを見つける面が高ポイントであることが嬉しい。しかし、自分の良いところを見つけられなかった4名をしっかりと応援してあげて欲しい。いじめについては、児童ヒアリングからもあることは事実だが、回避の方法や相談することが身に付いていることが分かりました。学校の指導による成果と一緒に行事に取り組んだり、縦割り活動を行うことで柔軟な対応が出来ているものと思います。
	年度	良好	良好	「自己有用感をはぐくむ集団づくり」「達成感を味わえる活動」も子ども達を見ていて充実した集団活動ができていることが分かる。特に「自分には良いところがあると思う」のポイントが上がったことが嬉しい。「達成感・活動」では先生方は子ども達の達成感を感じ、自分達も満足で充実を感じた結果がポイントアップ理由と推測、共感出来ていることが嬉しい。
校自 己改 善 策の 概 要 と 学	【前期(一年度)】 自己有用感、自分で気付くこともあるが、多くは他人から「ありがとう」と言われたり認められたりすることで自覚することが多い。これからも、帰りの会や振り返りの時間などを通して、互いのよさを認め合える場を増やしていく。このことが、達成感を味わえる活動にもつながっていくと考える。いじめについては、未然防止と、いじめが起こった後の対応を大切に、いじめゼロは目指すが、隠したりやむやにしたりということがないようにする。			
	【年度(二次年度)】 互いに認め合う学級づくりができきている。自分のことだけを考えているとどうしてもわがままな行動が多くなってしまいが、協力して物事に取り組むことで達成感を共有している。言葉遣いなどで気になる児童もいるが、後回しにせず、その都度指導していくことで、間違いを気付かせ良好な人間関係を築かせていく。			

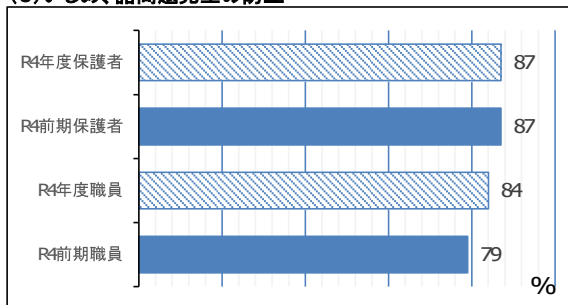
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 共感し合う心	(5) 自己有用感をはぐくむ集団づくり (6) いじめ、諸問題発生防止	<ul style="list-style-type: none"> ・互いを認め合う学級づくり ・自分のよさに気付く場の設定 ・縦割り活動の充実 ・学び合いを大切に授業 ・早期発見の体制づくり ・いじめアンケート ・教育相談の充実 ・家庭との連携 	3	4
5 一人一人のよさの発揮	(7) 達成感を味わえる活動	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、学習発表会、スペシャルデー、感謝集会などの学校行事 ・学び合いを大切に授業 	4	4

【4に関するデータ】

(5) 自己有用感をはぐくむ集団づくり



(6) いじめ、諸問題発生防止



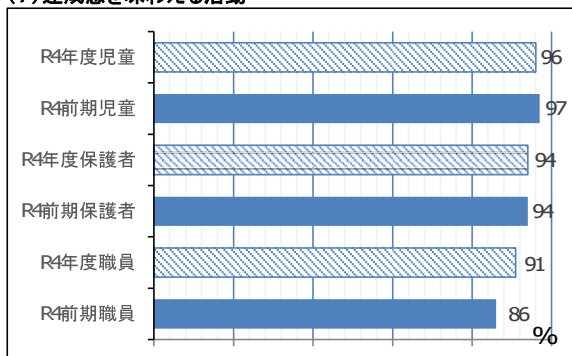
【(5) 保護者アンケートの記述より】
・友達への言葉遣いが気になることがあります。楽しんでいるときでも相手の気持ちを考えた言葉遣いができるといいと思います。

【(6) 保護者アンケートの記述より】
・低学年の指導が大変そう。

・児童のアンケートで「友達のよさやがんばりを見つけることができた」は前期と同程度で高い数値になっている。また、前期は「自分にはよいところがある」が86Pだったが90Pに上がっており、否定的な回答をする児童が減っている。
・トラブルの件数は減ってきているが、保護者からの記述のように、言葉遣いなどで気になる児童もいる。トラブルの原因となり得る芽を早めに摘むなどして未然防止に努める。

【5に関するデータ】

(7) 達成感を味わえる活動



【上左: サツマイモ掘り、
上右: 花壇片付け
下左: マラソン記録会】

児童、保護者、教職員とも90P以上の数値となっている。児童は様々な活動に一生懸命に取り組んでいるため、がんばっている分、達成感が味わえているのではないかと考える。今年度は残り数ヶ月であるが、このよき伝統が次年度にも引き継がれていくよう働きかけていく。

ア 児童の状況

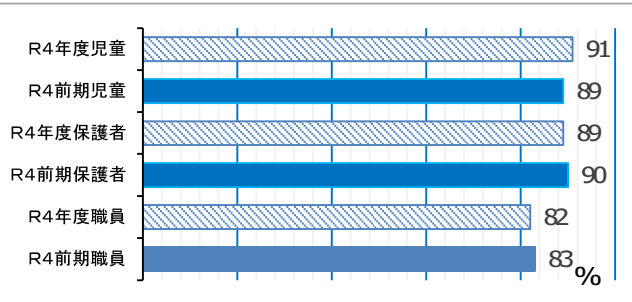
Ⅲ 基礎学力

児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
児童一人一人が基本的学習習慣を身に付け、主体的に学習しながら学習内容を定着させている。	前期 おおむね良好	おおむね良好	「宿題が多すぎる」という保護者からの意見に対し、先生方としては適量であるとコメントをいただいている。保護者としては家で過ごす時間の割合や集中力が続かないなど悩みや心配があるようです。先生方も子ども達を思い必死に考えた量であることが分かったので、お互いの理解と説明が必要に感じる。
	年度 おおむね良好	良好	先生方の「分かる授業」への取組みが、授業参観での自信を持った発言から成果を感じる。ある学年では他の人と違った回答だったが、その理由と自分が間違っていたことを認めて訂正するという場面を見た際は感動した。素晴らしい取組みが出来ているので引き続きをお願いします。加えて、学力向上の実績として、平均正答率の更なる向上に努めて欲しい。
学自己評価改善の概要と	【前期(一年度)】 概ね学習習慣は身に付いていると言える。個々に見ると忘れ物などが多い児童もいるが、個別に声をかけている。今年度は、題意を正確に捉えることと、根拠を明らかにして説明することを重点に掲げている。何を聞いているか、問いにふさわしい答えになっているかを明らかにし、理由をもとに説明できる力をつけていきたい。そのためにも、学校の学習はもちろん家庭学習の充実も不可欠である。学校での学びが着実に身に付くよう支援していく。		
	【年度(一次年度)】 アンケート結果では前期と似たような傾向にあるが、授業中の発言や学ぶ様子を見てみると、主体的に取り組もうとする児童が増えているように感じる。個々に見れば、伸びしろのある児童、支援が必要な児童もいるが、少人数の特長を生かした手厚い指導を心がけ、学力向上に結び付けたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 基本的学習習慣	(8)基本的学習習慣の確立	・失立っ「学習の約束」・ノート指導 ・家庭学習の習慣化 ・各教科における言語活動 ・表現する場の設定 ・反復練習	3	3
6 学力向上	(9)基礎的・基本的な内容の定着と説明する力の育成	・少人数の特性を生かした基礎、基本の定着 ・児童主体の授業改善 ・教師の見届けと指導、支援 ・根拠を明らかにして説明する場の設定	3	4

【5に関するデータ】

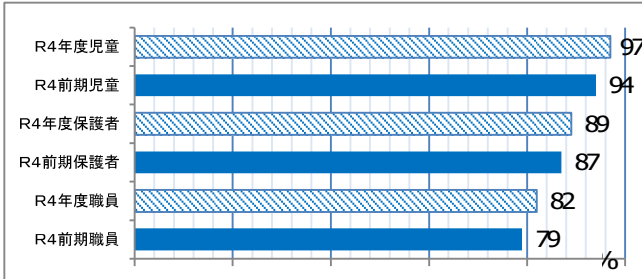
(8)基本的学習習慣の確立



・アンケート結果は前期と同程度であり、80%～90%となっている。データから見限りでは、良好な状態である。
・授業では、話型を取り入れながら分かりやすく話す様子が見られた。また、聞く方も話す人の方を向き、反応しながら聞いている。
・机の上の整頓、準備、片付けなども適切に行われている。
・家庭学習は、ほとんどの児童が毎日きちんと行っているが、個々に見るともう少しがんばってほしい児童もいるため、個別に対応している。

【6に関するデータ】

(9)基礎的・基本的な内容の定着と説明する力の育成



・このアンケートでは、2～3ポイントではあるが、それぞれ前期を上回っている。
・12月に行った県の学習状況調査の質問紙では、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる」に全員(高学年)がプラスの回答をしている。平均正答率では県平均よりも下回っている教科もあるが、少しずつでも着実に力がついてきていると捉えている。

<授業の様子



【1,2年 生活科】



【3,4年 国語】



【5年 算数】



【6年外国語】

ア 児童の状況

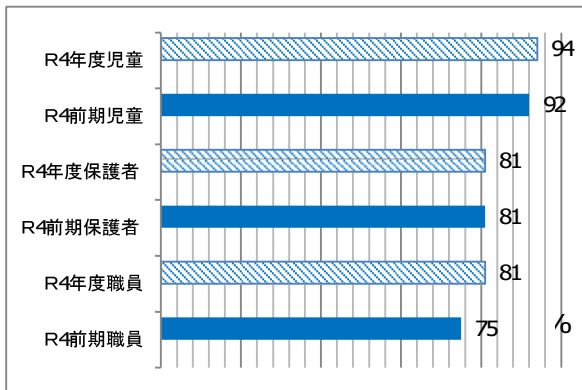
IV 健康と体力

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
児童一人一人に運動の機会を多く与え、家庭と連携して健康な生活習慣の形成に努めている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	データでは割と高い数字となっているが自己評価が何れも3となっている。課題は歯磨きと休み時間の過ごし方でしょうか。休日など家にいる時の歯磨きは保護者の協力を得て楽しく習慣化できるように取り組みを工夫していきましょう。体力づくりは、これから寒くなり体育館に行くのも億劫になりがちですので、楽しく取り組める工夫をしていきましょう。
	年度	良好	良好	先日の全校スキー教室では先生方が総力をあげて子どもたちの指導に当たっていた。冬場は運動不足になりがちなので工夫して取り組んで欲しい。健康的な生活習慣に関して、歯みがきや手洗い・手消毒の定着が見られとても良い。新型コロナウイルスは5類に引き下げられるが、引き続き取り組んで欲しい。
自己評価の改の善概要と	<p>【前期(→年度)】 週1回のマラソントイムでは、グラウンドを一生懸命に走る姿が見られる。ただ、普段の休み時間は教室で過ごす児童もいるのでできるだけ外や体育館で体を動かすように促している。給食後の昼の歯磨きはしっかりと行われているが、休日の歯磨きが疎かになる傾向にあるので、家庭でもしっかりと磨けるようカードなどを活用して児童の意識を高めていく。新型コロナウイルスは誰が感染しても不思議ではない状況だが、マスク着用、密にならないなどの基本的な対策は怠らないようにしていく。</p> <p>【年度(→次年度)】 歯磨きに関しては、学校歯科医や歯科衛生士などの協力、委員会による取組で一定の効果を上げており、むし歯ゼロや治療済みの人が増えてきている。一方でむし歯未治療の人もいるので早めの受診を勧めている。体力づくりでは、マラソン記録会に向けて一生懸命に取り組む姿が見られた。冬の運動不足解消のため、スキー授業やなわとび記録会などを活用して健康増進に努めていく。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 保健指導	(10)健康的な生活習慣の形成	・早寝、早起き、朝ご飯への取組 ・歯磨き指導 ・One Oneカードの活用(メディア等)	3	3
9 体力の向上	(11)体力づくり活動の充実	・業間運動の推進 ・外遊びの奨励 ・徒歩通学の推奨	3	4

【8に関するデータ】

(10)健康的な生活習慣の形成、歯みがき指導



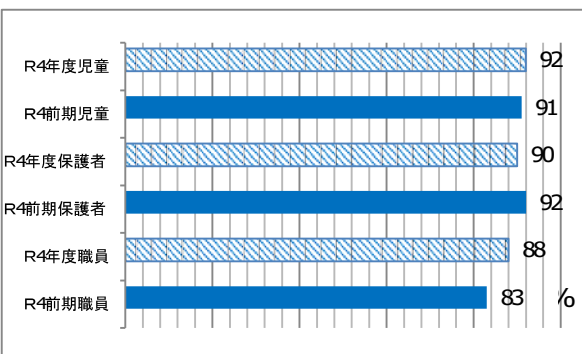
・アンケートの結果から、前期と比べて職員の数値が上がっている。職員からは、「毎日の歯磨きの他、新型コロナウイルス感染防止に向けた手洗いや手指消毒などが習慣化している」という意見があった。
・朝の登校風景を見ても、眠そうにしている児童は少なく、また、学校に入ってから「朝調子が悪い」という児童はいない。「家での歯磨き」が不十分という児童もいたが、全体として、家庭でも児童の健康に気を配っていることがよく分かる。



【左:歯つぴーコイン銀行 右:歯科衛生士による歯磨き指導】

【9に関するデータ】

(11)体力づくり活動の充実



【跳び箱運動】

【8の字跳びで体力づくり】

・アンケート結果から、前期とほぼ同様で、80%から90%の数値となっている。職員からは「寒い冬、体育館で元気に遊べるようになってほしい」との意見があった。男子はドッジボールなどで遊んでいるが、女子はワークルームなどで過ごすことが多い。毎週火曜日に「8の字跳び」で学年ごとに競いながら、冬場の運動不足解消に努めている。

イ 学校運営の状況

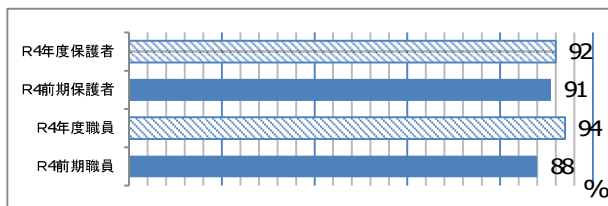
V 組織運営及び保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
学校に実情に合った経営がなされ、保護者、地域との連携が図られている。	前期	良好	良好	今年度は田植えやぶどう狩りを加えこれから稲刈りもある。地域の方々にはいい意味で甘えながら地域に合わせた活動が出来ている。これは校長先生の学校経営や重点施策の説明が広く伝わっている表れだと思います。先日の学習発表会での粕田酒こし舞の完成度も年々高くなっている。外で発表する機会もあるとのこと、子ども達の成長にうまく活用できている。引き続きお願いしたい。
	年度	良好	きわめて良好	地域の伝統を継承したり、名所に足を運んだり、農作業をしたりと地域の良さを大いに活用し、学校教育目標に向かった取り組みがされていて素晴らしい。矢立は小学校が中心で、一番大切な存在です。学校が核となり活動してくれていることで、学校・保護者・地域の連携と協力体制は大館市内ナンバー1であると評価委員からコメントが出るように誇れるものになっている。学校には本当に感謝している。
学自 校己 の評 改 価 善 の 策 概 要 と	<p>【前期(一年度)】 日頃から保護者、地域の方々の協力を得ながら教育活動ができていることに感謝している。また、他校の児童と一緒に学ぶ機会があることもありがたい。新型コロナウイルスの状況にもよるが、老人クラブや婦人会等ともつながりをもてればさらに地域連携が進んでいくものと思う。今後も学校での様子をできるだけ分かりやすく伝え、協力をいただきながら学校経営に努めていく。</p> <p>【後期(一次年度)】 3つの項目で、いずれも90%以上の数値となっている。職員のみならず、保護者の方も地域の方々のご協力に感謝していることが分かる。その期待に応えられるように今後も丁寧に情報提供し、学校運営に努めていく。また、公民館や保育所などの関係機関との連携も継続していく。児童には、地域のことを知り、地域のことを学ぶ機会を提供しながら、地域を大事にする気持ちをこれからも育てていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 学校の明確な運営	(12) 経営方針や重点施策の明示	・経営方針、重点施策の明確化	4	4
11 開かれた学校	(13) 保護者・地域への情報発信	・学校だより、学級だよりの活用 ・諸活動の案内 ・HP、ブログ、緊急メールシステムの活用	4	4
12 PTA、地域、他校との連携	(14) PTA、地域、関係機関との連携	・地域のよさを生かした活動 ・PTA活動の充実 ・9年間のスパンでの実践事項 ・他校との交流学习	4	4

【10に関するデータ】

(12) 経営方針や重点施策の明示

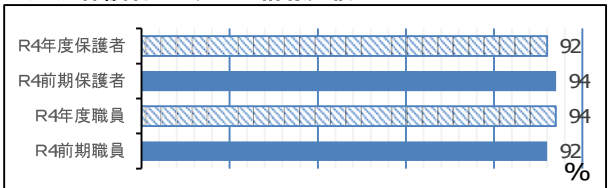


・教職員、保護者とも前期よりも幾分数値が上がっている。
・式の際などに全校児童に目指す子ども像などを確認してみると、ほとんどの児童が口に出して言える。職員の見解の中にも「子どもたちにはよく浸透している」という意見があった。頭の中では理解できていると思うので、それを行動に移せるかがカギになる。



【11に関するデータ】

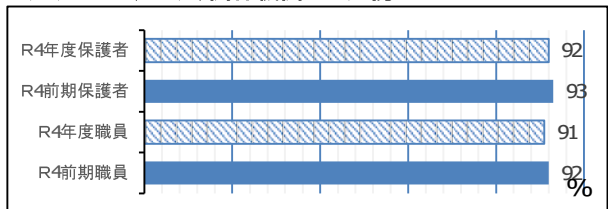
(13) 保護者・地域への情報発信



・この項目は、保護者の数値が幾分下がっていて、逆に職員の数値が上がっているが、前期とほぼ同程度である。
・今後も、学校の様子、児童の活躍を、分かりやすく情報発信していく。また、新聞などの報道機関も積極的に活用していく。

【12に関するデータ】

(14) PTA、地域、関係機関との連携



【左：地域の方の協力を得て球根植え、
右：保護者の方の協力を得てきたんぼづくり】

・矢立小学校は、保護者、地域の皆様のご協力のおかげで、児童が楽しく活動できる。後期は、畑、花壇作業の他、酒こし舞の指導、スペシャルデー、スキー授業などの活動でご協力いただいた。また、昨年度に引き続き、今年度も大館北ロータリークラブから本の寄贈、市観光協会からアメッコ市枝アメ付けなど、矢立地区を越えた方々のご協力もあり感謝している。感謝の気持ちを元気な姿、元気なあいさつで返せるよう引き続き指導していく。
・今年度は、昨年度作成した「矢立ふるさとカルタ」に中・高学年の児童が説明を付け加えた。地域を知ること、地域を大事にする気持ちが育ってほしいとの願いである。現在ホームページに掲載中。

【全体コメント】

- ・「矢立ふるさとカルタ」に説明が加えられ親しみが増した
(ホームページ掲載)
- ・各家庭で子どもたちがどんなお手伝いをしているかを知りたい
- ・感染対策による行事等の人数制限等は少人数校の良さとして
他校よりも緩和して良いのではないのでしょうか
(人数と体育館の広さから考えると密にならない)
- ・早くマスクが外れ子どもたちの豊かな表情が見たい
- ・子どもたちに好きな行事や思い出に残っていることを聞きました
運動会 (1位になれた)
学習発表会 (みんなに楽しんでもらった、たくさん拍手をもらった)
かるた (楽しかった)

【総括】

- ・前期に比べ5項目中4項目の評価が上がりました。先生方の真摯な取り組みの成果となります。
- ・矢立の良さは、学校・保護者・地域の連携と協力体制にあります。子どもたちが地域の宝だと多くの方に思っただけでいることで、多くの協力者がいます。また、学校が核となり主体的に活動してくれているおかげで、子どもたちの元気と笑顔が地域に届き活力となっています。小規模校で先生方は多くの役割があり大変と思いますが、引き続き子供たちのために尽力いただきたくお願いいたします。

